

# 目次

- 0 0 2 はじめに
  
- 0 0 4 第 1 章 北区の特性と災害の想定
  - 0 0 5 第 1 節 北区の特性
  - 0 1 3 第 2 節 本計画で想定する災害
  
- 0 2 1 第 2 章 総則
  - 0 2 2 第 1 節 区役所、区民、事業者の責務と役割
  - 0 2 5 第 2 節 災害時応急対策活動
  - 0 3 0 第 3 節 災害時即応体制の確立
  
- 0 3 1 第 3 章 各論
  - 0 3 2 第 1 節 情報の収集・伝達体制の確立
  - 0 3 4 第 2 節 初期消火体制の確立
  - 0 3 6 第 3 節 災害時医療機関情報の把握と救護体制の確立
  - 0 3 8 第 4 節 避難所における管理運営体制
  - 0 3 9 第 5 節 避難行動要支援者の把握等
  - 0 4 2 第 6 節 災害ボランティアの体制整備
  - 0 4 4 第 7 節 帰宅困難者の避難対策
  - 0 4 6 第 8 節 津波等発生時の避難対策
  
- 0 4 7 巻末資料
  - 北区の震度分布図
  - 津波から命を守るために
  - 北区ハザードマップ
  - 情報収集先一覧
  - 地震発生時の行動パターン

## はじめに

北区は大阪の玄関口に位置しており、区の北側を流れる淀川は、毛馬から分かれる大川となって都心部に入り、中之島で堂島川と土佐堀川に分流します。

北区は、これらの川に囲まれており、便利な水運と豊かな用水を生かして発展してきました。

一方で、過去には度々水害が発生し、区民を苦しめてきましたが、大規模な淀川の改修工事等を経て、現在まで発展し続けてきました。

昨今、地球温暖化の影響を受けた集中豪雨や、東日本大震災以降に日本各地で頻発している地震、平成25年度に大阪府が発表した「南海トラフ巨大地震の被害想定」等を受けて、大阪市においても市民の危機事象に関する関心が高まってきており、とりわけ高度な都市機能が集中しているうえ、低地にある北区にとっては防災に関する取り組みの重要性が一層増しています。

こうした背景のもと、北区では官民一体となった防災活動が円滑に行えるよう、中長期的な展望も見据えた「北区防災計画」を策定しました。

この「北区防災計画」は、災害に対する事前の備えや災害直後の区役所、区民、事業者の責務、役割について特に重要な項目に絞って、わかりやすく記載し、災害時にそれぞれが役割どおりに行動できることを目的としているため、必要最小限の記述にとどめています。

そのため、本計画とともに「大阪市防災・減災条例」、「大阪市地域防災計画」なども併せてご参照いただくようお願いします。

本計画が、区民、事業者の皆さまにとって役立つものとなり、それぞれの防災力の向上に寄与することを願っています。

北区役所地域課



# 第 1 章

## 北区の特性と 災害の想定

- 0 0 5 第 1 節 北区の特性
- 0 1 3 第 2 節 本計画で想定する災害

## 第1節 北区の特性

### 1. 北区の概況

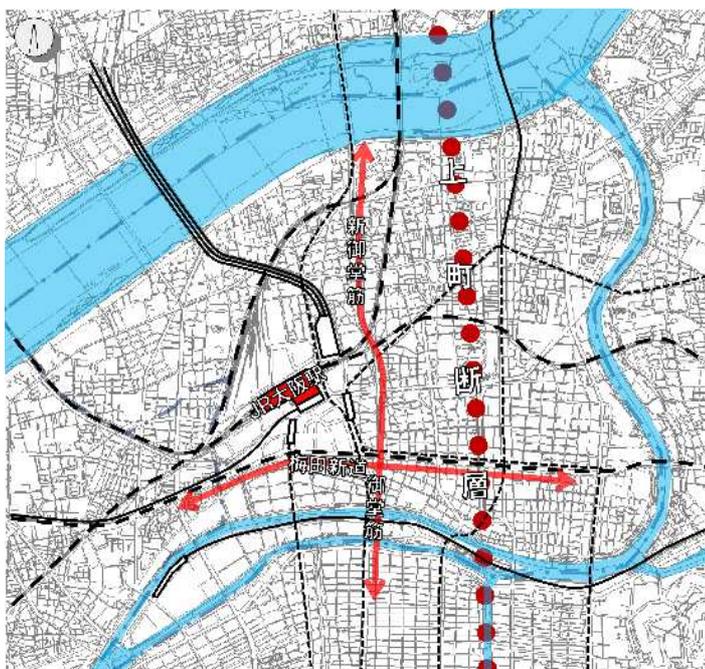
#### 地理・交通-川に囲まれ、断層が貫く西日本最大の商業地

北区は大阪の玄関口に位置し、北は淀川、東は大川、南は土佐堀川と三方を河川に囲まれ、西は福島区に隣接している。

北区の地形は、河川の堆積作用により形成されており、軟弱で地震時には液状化が起こりやすい。また、昭和初期の過剰な地下水くみ上げによる地盤沈下によって、河川水位より地表が低くなる現象が生じている。東側には大阪を南北に貫く上町断層が存在している。

北区の中心部のJR大阪駅周辺は、阪急・阪神・地下鉄・市バスの大ターミナルであり、鉄道駅を中心としてオフィスビル、百貨店、ホテル、飲食店が集まり西日本最大の商業地として形成している。

中心に位置する梅田新道は、国道1号線（東京～大阪間）の終点であるとともに国道2号線（大阪～福岡間）の起点であり区内を東西に横断している。さらに、この付近から商都大阪の交通の大動脈である御堂筋と新御堂筋がそれぞれ南と北へ延びている。また、幹線道路や阪神高速は都心部から放射状に伸びており、北区は道路交通の要所となっている。



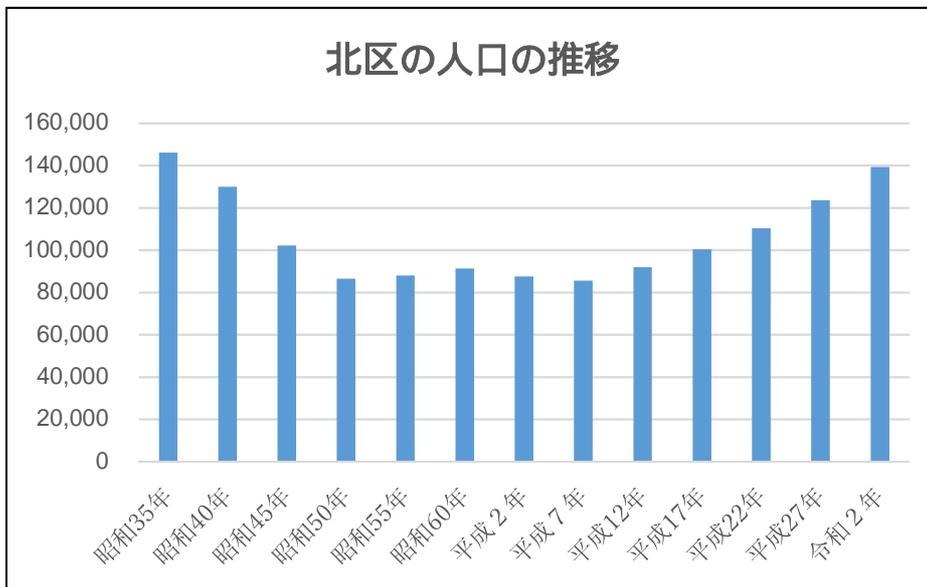
北区の交通網図

## 地域・区勢-増加を続ける人口。支援が必要な方が増えている

JR 東海道線支線の南部のほとんどは商業地域であり高密度の街が形成されており、近年は高層マンション等の住宅建設が進んでいる。淀川や大川のリバーサイドは、かつて工場が建ち並んでいたが、近年は大規模集合住宅や公園が整備されており、職住近接の都心に最も近い住居地域として注目されている。

北区の人口は平成7年以降増加傾向にあり、昼夜間人口比率が高くターミナル駅周辺の繁華街は夕方から夜間にかけて人口が増える傾向にある。

通勤、通学、買い物客等大阪駅周辺には大勢の人が行き交うため、災害時に周囲の方で情報を共有し助け合えるまちづくりが重要である。



## 地域団体等- 歴史ある連合振興町会とともにエリア開発が進められている

区内には19の連合振興町会があり、各種地域活動を実施しているほか、60の商店街組織が商店街の運営を行っている。

また、一体的な開発が行われた堂島や梅田のエリアでは開発協議会やタウンマネジメント組織等の組織が形成されている。



天神橋筋商店街

(c) 大阪観光局((公財)大阪観光コンベンション協会)



お初天神通り商店街

(c) 大阪観光局((公財)大阪観光コンベンション協会)



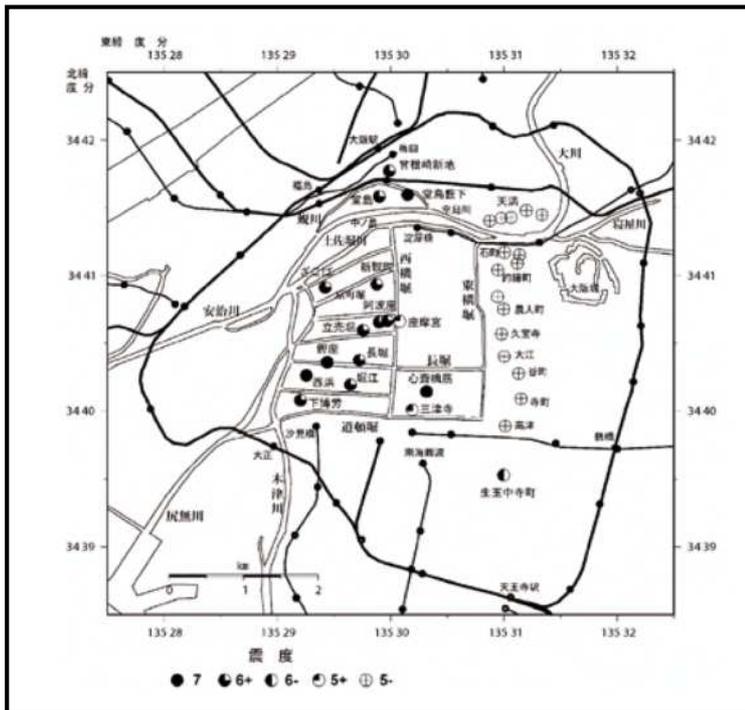
開発が進む大阪駅周辺(グランフロント大阪)

## 2. 過去の災害

震災-300 年前の宝永地震は日本最大級！

### 宝永地震

宝永4年（1707年）に発生した宝永地震は、南海トラフのほぼ全域にわたってプレート間の断層破壊が発生したと推定され、記録に残る日本最大級の地震とされてきました。この地震による津波が大阪に大きな被害をもたらしましたことが語り継がれていますが、震度面でも、堂島付近で震度7 の大きな揺れが生じたとの記録も残されています。



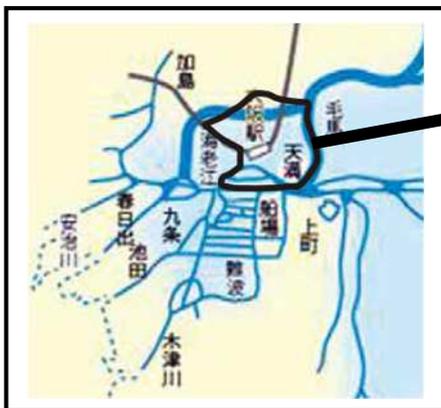
宝永地震（1707）による大阪三郷（北組、南組、天満組）地域の地震分布

出典：歴史地震第22号（2007）[講演要旨] 大阪府における宝永地震（1707）、及び安政南海地震（1854）の詳細震度分布 都司嘉宣（東大地震研）

水害-繰り返された河川氾濫を契機に、大規模な河川改修事業が行われた！

## 新淀川開削

明治初期に相次いだ淀川の氾濫は、市中に多大な被害を及ぼし、治水対策として淀川の直線化、バイパスとなる新淀川開削、毛馬洗堰の設置等を柱とする大規模な改修事業が行われ、明治42年（1909年）に完工しました。



北区

明治18年の洪水で浸水した地域

出典：淀川河川事務所ホームページ



淀川改修流路図

出典：陸地測量部明治18年測量地図

## 過去の 大型台風

昭和9年（1934年）室戸台風が来襲。大阪府の被害が各府県  
のなかでもっとも大きく、全国の行方不明を含めた死者のうち、  
大阪は約6割を占め、豊崎小学校の校舎が倒壊し児童19名が亡くなりまし  
た。被害を大きくしたのは高潮被害でした。北区では済美・曾根崎小学校の  
木造校舎が全壊する被害に遭いました。

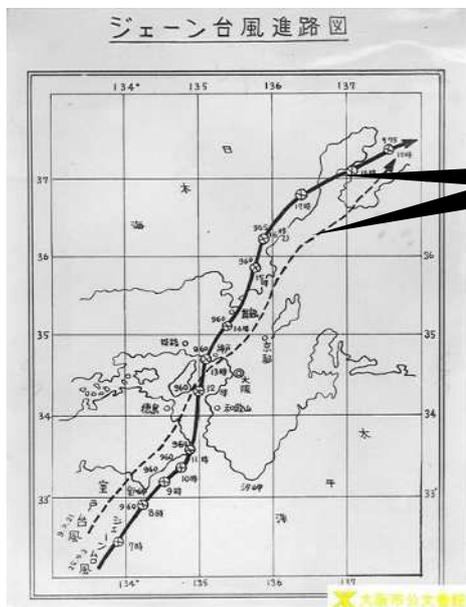
その後も昭和25年（1950年）ジェーン台風、昭和36年（1961年）第  
二室戸台風が地盤沈下の進んだ大阪を襲い、甚大な被害を与えました。



室戸台風の被害  
出典：大阪市公文書館 平成26年度常設展  
示資料



堂島・土佐堀川の溢水状況（第二室戸台風）  
出典：第二室戸台風の高潮による大阪市内  
浸水実績図 大阪府土木部 平成3年9月



ジェーン台風進路図  
出典：大阪市公文書館ホームページ

台風がこのルートを通ると  
大阪に最も甚大な被害をもたらす



地盤沈下で水面と屋根の高さが同じに  
（昭和初期）  
出典：デジタルギャラリー2010

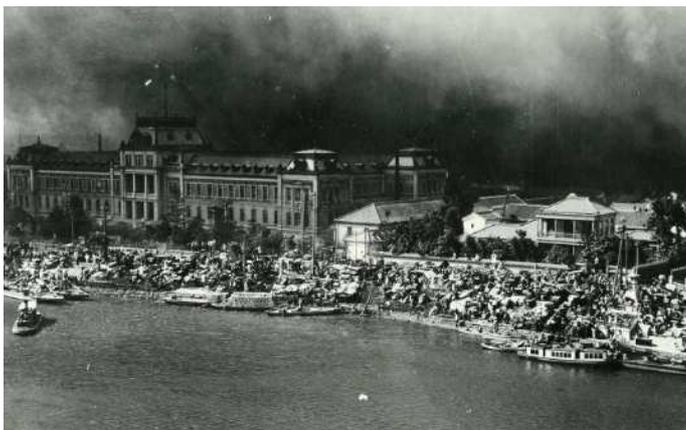
火災・戦災-明治42年の大火で北区の大部分が焼失した

(甲子園球場308個分の面積)

## キタの大火

明治42年(1909年)に「キタの大火」と呼ばれる大火事が発生しました。空心町付近で出火した火災は西へ広がり、堂島、曾根崎一帯にまで達し、当時の北区の大部分が焼失しました。

この火災の復興事業として曾根崎川(蜷川)が埋め立てられたほか、四つ橋筋、天神橋筋等の拡幅、国道1・2号の新設が行われ、大火の前年に完成していた淀屋橋から大阪駅までの梅田新道(現御堂筋)とあわせて都市基盤が向上しました。



明治42年のキタの大火(若松町・控訴院付近)

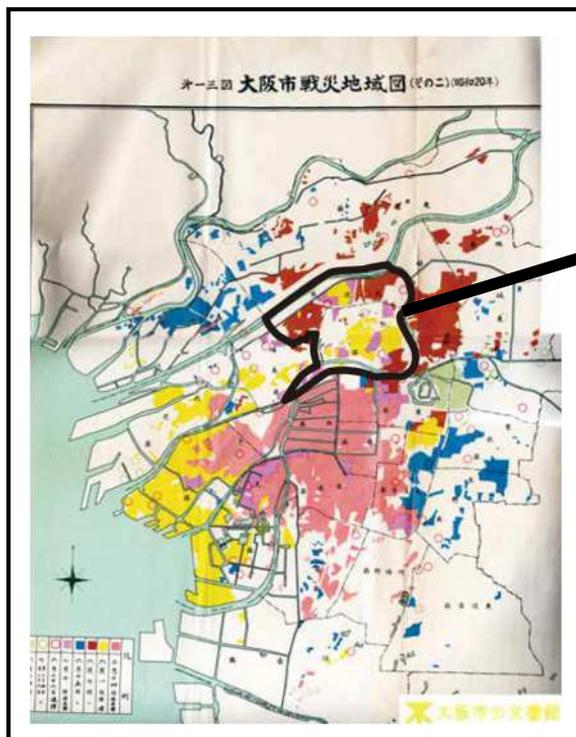
出典：大阪市公文書館平成26年度常設展示資料

## 大阪大空襲

昭和20年3月13日深夜から14日未明にかけての大阪大空襲では、旧北区内の4分の1が焼失する被害を受けました。

また、6月1日と7日には旧大淀区域も含め広範囲に爆弾が落ち、度重なる空襲によって、近代化に努めてきたまちは廃墟に変わりました。

終戦後、震災復興の土地区画整理事業や各種の市街地開発事業により街区の整備が行われたが、戦火を免れたエリアに密集市街地が残っています。



北区

大阪市戦災地域図

出典：デジタルギャラリー2005